



...「アオ兄ちゃんだけお散歩連れて行った。」

「ズルい。オレたちだって、マフラーしてお出かけに備えてたのに。」

「連れていけ、連れていけ。」

この間、アオ君だけお散歩連れてったのがばれて、マフラー・ブラザーズから抗議の声が。

もう、お出かけ用象さんバッグに入ってスタンバイしちゃうもんね。



「仕方ないなあ。電車に乗るんだから、気を付けるんだよ。」

「電車〜っ！」



「電車？電車？これが中央線？」



電車って楽しいね、いっぱい人がいるね、何となくのんびりしてるね。
今、一番空いてるくらいだからね。



空いた電車に座って、ふわっと光が差し込む瞬間って、とってもイイんだ。

晴れた朝、空いた電車に乗って、どっか遠く知らない町まで行きたいなって思ったりするんだ。

歩いていて、線路を電車が走ってくの見てもね、一瞬通り過ぎる、中に乗ってる人たちの風景に、心がふわっと一緒に飛んでっちゃう気がしたりするんだ。

ぶおーん、って通り過ぎてく、夜の電車の明かりも、ドキドキしちゃう迫力だよ。



来るぞ来るぞ来るぞ。



来たーっ！



置いてかれちゃったね。
お留守番、寂しいね。

ウン。夕暮れだしね、ちょっと寂しいね。



どんどん暮れちゃうね。
早く帰ってきて。

あみねこの日々 あみねこ電車に乗る

<http://p.booklog.jp/book/46169>

著者 : yamamomon

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/yamamomon/profile>

※あみねこの著作権は、ねこやまさんにあります。

この写真絵本は、ねこやまさんの許可を得てyamamomonが制作、発表しているものです。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46169>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46169>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.